

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601738
法人名	株式会社 さくら苑
事業所名	グループホーム さくら苑 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市南1丁目17番1号
自己評価作成日	平成24年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、久留米市内でも高齢化率の高い地域にあり、平成15年12月の開設当初より、地域の中の認知症になってしまった方々の住む「いえ」として事業運営を行っている。ご利用者1人1人が地域に暮らす1人の住人として暮らしていけるよう支援しており、日頃の散歩・地域の夏祭りには毎年参加している。また、開設より9年目を迎える今日、ご利用者の状態も変化されてはいるが、同じ「いえ」に住む疑似家族として、また協力医の絶大なご協力のもとターミナル・お看取りまで支援させていただいている。なお、介護保険事業所として、「福祉・介護・認知症」に関するポスター等が入手された際には、道路わきに設置した掲示板にて、地域の方々に情報を発信している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かな住宅街に位置している。道路側の塀を低くして見通し良いものにしている。また、リビングの窓を掃出し窓に変えたので内外から見えるようになり、地域の方が通りかかると利用者との会話がはずんでいる。「地域の一員として、普段通りの生活を支援していく」を理念に掲げ、その実現にホーム一丸となって取り組んでいる。ホームでは本人及び家族の希望により、多くの利用者が人生の終末期を迎えている。かかりつけ医、家族、ホーム代表者、職員等が協力して看取りを支援している。他の利用者は部屋を訪れ、静かに手を合わせて最後のお別れをしている。代表者は市内のグループホーム部会長として市の委員会にも名を連ね、自ホームだけではなく市全域のグループホームのサービス向上と、より良いホームづくりに腐心している。職員は他のホームに交代で1日学びに行き、お互いに良いところを取り入れている。今後が楽しいなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の「介護理念」は、開設当初より「地域の中のひとつのいえ」としての考え方の下、毎日の朝礼時には朝礼参加者全員で唱和し、全職員一丸となって理念の実践に向けて努力している。	家庭的な雰囲気を大切にし、地域の一員として安心して安全に暮らしていけるように努めている。理念を朝礼時に唱和することにより、職員全員が同じ気持ちで利用者を支援する姿勢がみられる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	基本的に雨の日以外は、地域を散歩し、地域の夏祭りには毎年参加し地域の一員として生活していける様支援している。また自治会に加入し当事業所の運営推進会議には毎回必ず自治会より参加していただいている。	調査当日も利用者の乗っている車いすを他の利用者が押して職員と共に散歩していた。散歩時に庭に咲いている花や野菜をいただくこともある。ホームの敷地内に掲示板を設け、認知症に関する資料等を掲示して地域に発信している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	概ね2カ月に1度、地域の小規模福祉事業所が包括支援センターの呼びかけで集まり、この地域で「私たちができること」を話し合っている。電話による相談は、随時受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当グループホームの運営推進会議には、近隣の他事業所の方にも参加していただき、状況報告を行い、また意見を伺いながらサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議には、地域代表、行政担当者、近隣の事業所、利用者、家族等の参加がある。会議で話し合われた内容によっては他の事業所へ1日研修に行き、サービスの向上に活かしている。また、会議記録は詳しく書かれてあり、関係者や家族にも送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ出向いた際には、必ず担当者と面会し、情報の共有を行っている。また、市主催の同業者研修の場では、困難事例の解決に向けて意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームの代表者は市の委員を務めており、市の担当者と連携しながら、自ホームはもちろん市内のグループホームのケアサービス向上や様々な事柄に積極的に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵を施錠することはないが、新しく入居され、落ち着かれるまでは、現状を考慮の上、各フロアーの入り口を施錠することはある。	前回の評価で改善事項となっていた各フロアーの出入り口の施錠は、現在は行っていない。出入り口にセンサーを付け、職員が出入りするときは必ず声を出し、声がないときは利用者であることがわかるように取り決め、音に敏感になるようお互いに注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修・勉強会に参加できるよう、案内板に掲示し、また各フロアー月1回のカンファレンスに於いて勉強会を行い、虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ご利用中のご利用者に、成年後見制度が必要と思われた方がおられたため、ご家族へお話しし、制度を活用されている。また、職員の周知においても、各フロアーカンファレンス時に勉強会を行っている。	成年後見制度を利用している利用者がおられるため、その方を通じて制度の内容を学んでいる。職員も勉強会で学び、必要な人には活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関しては、十分に納得していただけるよう、説明している。また契約締結後も何か不審な点等あれば、いつでもご相談いただけるよう声かけを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、「さくら苑便り」に意見や要望が得られるよう働きかけしている。家族会資料には、常に市役所・国保連の電話番号を記載し、意見・要望がある際にはご連絡いただけるようにしている。	年4回発行している「さくら苑便り」は写真を多用しており、遠くに住む家族にもホームでの生活を知っていただきたいとの思いから送付している。家族会や来訪する家族には意見や要望を聞かせて欲しいと常に働きかけているが、意見等はでてこない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼時、月1回のカンファレンス時には、職員に対し運営・その他のことに対しても意見を求め、また常日頃より職員が代表者・管理者に意見や提案を申し出やすい環境づくりに努めている。また、申し出があった意見や提案については、全職員で話し合い運営に反映している。	月1回の会議では職員は自由に意見が出せる雰囲気がある。提案については、他のホームでの現状を1日かけて、複数の職員が交代で見学に行き、良いところは積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修・勉強会の案内を掲示板に張り出し、職員の参加を促すと共に、研修会に参加した職員に対しては研修の記録を提出してもらい、評価につなげている。また年に2回、職員全員に自己評価を記入してもらい、各職員が向上心をもてるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢等により採用対象から排除することはないが、やる気の有る無によっては、不採用としている。	専門資格を取得するため夜間の専門学校に通っている職員は昼間だけの勤務にしたり、外部で行われる研修にも積極的に参加を勧めている。職員は貼り絵やちぎり絵、折り紙等々得意な能力を発揮して生き活きと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「人権教育・啓発活動」と意識して取り組んではないが、常に入居者の人権を尊重し業務にあたるよう、話している。	朝礼時に倫理に関する小冊子の1ページを職員1名が読み、他の職員が感想を言い、そのあと代表者が意見を述べて人権を尊重する職場づくりに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はもとより、ひと月に1回のカンファレンス時に勉強会を行い、個々の知識の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当グループホームは、久留米市介護福祉サービス事業者協議会に加盟、グループホーム部会に於いて部会長を務めており、市内加盟同業者と勉強会・研修会を通じサービスの向上に向け取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や申し込みの際にご本人のお話をよく聞くように心がけており体験昼食なども取り入れ顔なじみの関係づくりに努め安心して苑の生活を始められるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みの際に良くお話、要望などを聞き良い関係が築けるように努めている。グループホーム職員が疑似家族であり、ご本人を共に支えるサービスであることの説明を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申し込みに来られた際に良くお話を聞き必要とされている支援を見極めグループホームは勿論のこと他のサービスの説明を行っている。また、他グループホームへの見学も勧めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に家事などを手伝っていただき役割や生きがいを持っていただき暮らしを共にする疑似家族の一員としての関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には時間の許す限り面会に来ていただくように声かけしている。また、母の日・敬老会には全ご家族にお声かけしご家族と過ごしていただく時間を持ち絆を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れないよう面会時には居室でゆっくりお話しいただいておりまた、電話をかけて来られた際にはゆっくりお話ができるよう支援している	行きつけの美容院や外食は家族が連れて行っている。利用者の希望によっては、住んでいた家、たんぼや畑を見に行ったことがあり、これまでの馴染みの関係が継続するよう支援している	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でお話できる場を作っている。レクや散歩時などは毎日行っておりご利用者同士で支え合われている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設退所後、他施設へ行かれても時間を見ては面会に行き、そこでの生活状況をみて食事介助をしたり支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族に生活歴を記入していただきご本人、ご家族の思いに添えるように支援している	利用者と話をしながら思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、声かけを支援肢を示して、表情を見ながら判断している。また、手を握ってもらい、OKならば手に力を入れる等、その人に応じた対応を検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に生活歴を記入していただき馴染みの暮らし方、生活環境・これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしの中でご本人のADLや体調などをしっかり把握し、変化があれば申し送りノート・個人ノートに記入し全職員が現状の把握ができるようにしている。また、職員の手伝いができる方には声かけを行い役割、仕事を持っていただくことで心身の安定に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスに於いて担当者が作成した介護計画、モニタリングを発表し情報の共有、課題を話し合っている。また、介護計画をご家族へお渡ししご家族からの要望を取り入れるようにしている	職員は利用者を1、2名担当している。職員は利用者、家族と話し合い、介護計画を作成して会議で検討している。3か月に1度実施状況の把握をしている。また、変化があった場合はその都度現状に即した見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の変化を見逃さず気付いたことは職員間で申し送りノートや個人ノートを活用し、月一回のカンファレンスで話し合うことでより良いケアに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、ご利用者の体調を観察し、柔軟な対応でサービス目標をクリアできるようにしている。病院受診の支援、他グループホームや地域の他事業所との交流を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の散歩を通じ苑の周りの住民の方々からも地域の一員として認めていただいているように感じる。ご利用者の力を発揮していただきながら毎日が豊かで楽しくなるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医にほとんどの方がかかりつけ医として月一回の受診及び年一回の定期検査など受けていただいている。受診ができない方は往診をお願いしている。往診時にも協力医には日頃の様子を見ていただきご利用者に安心して過ごしていただけるように支援している。また、状況に応じてご家族に対し協力医より今後の方向性について話をさせていただいている。	ほとんどの利用者のかかりつけ医はホームの協力医である。協力医は週2回往診に来ており、歯科も往診している。眼科、外科等の受診で職員が支援した場合は家族と密に連絡を取っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート・個人ノートを準備し現在の状況・変更事項などを記録し全職員に理解・周知できるようにしている。小さな変化なども報告し、かかりつけ医にも伝えるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際には必ず見舞うようにしており気づきがあった際には主治医・看護師に報告し、適切な受診・看護が受けられるように支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時より看取りまで支援させていただくことの説明を行い入居されてからは日々の会話の中でご本人の終末期をどこで迎えたいのか意思決定を伺っている。また、終末期には訪問看護ステーションを利用しながらご本人の生きてこられた長い人生の終末の時間を当事業所でお過ごしいただけることをかみしめながら支援している	本人や家族が希望した場合は家族、協力医、看護師と連携して希望に沿うよう支援している。月に2名の利用者をホームで看取ったこともある。その時他の利用者も順次部屋を訪れ、静かに手を合わせて最後のお別れをされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	嘔吐・熱発・転倒など急変時の対応法をカンファレンスなどで確認しあっている。急変時の記録を全スタッフが確認している。平成24年8月には事業所内にAEDを設置するように計画しており7月中旬にAED操作法の研修を地域の方にも声をかけ行う予定にしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練を行っており平成23年1月に設置したレスキューベランダで2階ご利用者の2方向避難を確保しており操作方法についても全職員に周知している。また、地震・水害などにおいても久留米市防災課の情報をカンファレンス時に伝達し情報の共有を図っている	避難装置のレスキューベランダ、火災報知器、スプリンクラーを取り付けている。消防署の指導で年2回、夜間を想定した防災訓練を行っており、職員は避難方法を理解している。訓練時には回覧板で近隣に知らせている。	ホームは住宅街にあることから、有事に備え避難訓練に近隣の協力参加が得られることが望まれる。また、運営推進会議の議題にして話し合う機会を持つことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者1人1人の立場に立って考えその方の生活歴を踏まえ、誇りや考え方を尊重した上で親しみを込めて対応している	人生の大先輩である利用者の人生最後の場面と一緒に共有できることを重く受け止め、利用者の立場を自分に置き換えて常に考えるよう、代表者は指導しており、職員も利用者に対し誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の言動行動によりその方の想いを推察し、想いを表現できるような声かけをしている。自ら、考え自己決定ができる声かけを行っているが困難と思われる方には介護職員が選択肢を提案し、自己決定ができるように働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的生活はあるものの、性格や体調に合わせ一日一日を過ごしていただいている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方はご自分で身だしなみをされている。介助が必要な方は職員がその方に合った身だしなみができるように支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを伺ったり、季節に合った会話をしている。また自立されている方には職員と一緒に後片付けをしていただいている。職員も同じ場所で同じものを食べ、味つけ、煮込み方など話をしながら食事を取ることで食事が楽しみなものになるようにしている	調査当日の昼食は弁当箱に彩りよくご飯とおかずを詰めてあり、利用者に好評で、全員が完食である。利用者の状況に応じたミキサー食等を職員は介助しながら、一緒に食事している。食後は自分でできることを当然のように手伝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を1日1000CC以上は飲まれるようにこぶ茶や甘いものなど味を変え摂取していただけのように支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを行っている。自力での口腔ケアが困難な方は職員がスポンジブラシや口腔用ガーゼを使用し口腔内を清潔に保っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイマーを設置し、声かけによりトイレ誘導を行っている。オムツ類の使用を減らせるように排泄の自立に向けた支援を行っている。自立している方でも3時間排泄の間隔があったら声かけを行っている	排泄表を活用し、排泄状況を把握している。排便は量や性状を5段階に分けてチェックしている。夜間も一人ひとりの状況に応じた支援をしている。1日に1500mlの水分補給を行い、スムーズな排便と水分不足防止に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に主食は麦飯で対応し食物繊維の多い野菜を中心とした食事を提供し1日に1000CC以上を目標に水分摂取していただけるように努めている。また、自立で体を動かせる方には体操や散歩などしていただき便通がスムーズにいくように支援している。毎日の朝礼にて便通がなかった日数を報告しその方の状況に応じて服薬の調整や腹部マッサージ、看護師より排便をすることもある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	約2日おき間隔で入浴していただくようにしてはいるが便失禁や外出で汗をかかれて帰苑された際など状況に応じて入浴していただいている。また入浴の際には長湯にならないように時間を見て声かけを行っている。	毎日3人の利用者の入浴支援を行っている。入浴を拒否される利用者に対しては時間をずらしたり、職員をかえて上手に誘導したり、足浴をしたりしている。重度の介護を必要とする利用者には2人の職員で対応して清潔を保っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日就寝前30分ほど歌のレクリエーションをし、その後、水分摂取後就寝していただいている。また、皆さんが休まれても眠れない方には本人のペースで就寝してもらえようスタッフと一緒にリビングなどで過ごしていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ノートを設け受診の結果、主治医の指示や服薬の変更などある度に記載しスタッフは勤務の際に目を通している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーション(歌・習字・貼り絵・運動など)を行い、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての戸外への外出は難しいが毎日の地域での散歩、外気浴・季節ごとの行事で戸外へでかける支援をしている	毎日の散歩、季節ごとの花見、レストランでの外食、買い物等、利用者の希望を聞きながら、家族の協力を得て、なるべくホームの外へ出かけられるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会は少ないがご本人がお金を持つことの大切さや安心感を得ることで希望に応じて持参できる支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・台所が風通しが悪いことがあるがご利用者の生活されている場所は光が良く差し温かい雰囲気がある。ご利用者が主に生活されている場所は季節を取り入れた貼り絵、写真などを掲示し生活感のあるよう季節の花を飾ったり、野菜や花を植えたプランターを室内から見えるようにしている。	窓の外にはきゅうり、ゴーヤ、トマト等を植え、実がなると窓から手を伸ばして収穫し、食卓に出している。リビングでは利用者と共に制作した大きな貼り絵が優しい雰囲気を作りだしていたり、2階への階段の壁には利用者の笑顔いっぱいの写真がかけてあったりして居心地のよい共有空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファ、テーブルを設置し気の合ったご利用者同士思い思いに過ごせる空間を提供している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの居室にご本人が使用していた家具や小物や絵をお持ち込みいただいている。またご本人にとって必要なものがあればご家族に相談し持ってきていただき心地よく過ごされるよう支援している	利用者の希望に応じて畳を敷いたり、テレビ、タンス、ソファ、仏壇、家族とのたくさんの写真、自分で描いた絵画等々を配置して、本人が居心地良く過ごすことができるような工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にできるだけ自立した生活が送れるようにトイレには大きく張り紙をし、必要な場所に手摺をつけ、ご利用者が自立できるようにしている。しかし現在の手すりの位置が悪く使いにくい場所があり今後手摺の位置の調整を行っていきたい		